特集9 エココンシャスに生きる

小関皆乎さん

八幡酒蔵工房 代表

近江八幡の町に魅せられ環境と町づくりの拠点に。

何気なく訪れた近江八幡にひかれ、陶芸の工房をもちたいと願ったことから、
小関皆乎さんの人生はそれまで思いもしなかった方向へ動きだしました。
竹やぶ整備のボランティアに参加して初めて知った環境問題を振り出しに、
環境と創作を融合した「八幡酒蔵工房」、町家再生、さらに町づくりへ…。
古い町家をリニューアルした工房で、小関さんの思いをうかがいました。

陶芸の工房探しがふと気がつけば単身赴任エコ活動。

1

2

1. 築120年の町家を再生させた“二代目”の「八幡酒蔵工房」はカフェ・ギャラリー・伝統工芸の工房があり、食堂だったスペースを利用したカフェはレトロな趣。2. 工房は古い家並みが残る近江八幡の旧市街にある。工房の名称は、初めに工房を開いた場所が酒蔵だったことに由来。

profile

小関 皆乎（こせき・みなこ）

「八幡酒蔵工房」代表。2004年に初めて訪れた近江八幡の町にひかれ、大阪の箕面市から「八幡山の景観を良くする会」の活動に通う。07年、近江八幡の酒蔵に工房をオープン、09年4月に古い町家を再生し工房を移転。家族を箕面に残し、近江八幡で町家暮らし。

２００７年８月に近江八幡の酒蔵の一画で、伝統工芸と環境保護を融合させた創作の場を目指して小関皆乎さんが開いた「八幡酒蔵工房」は、今年４月、古い町家に移転してリニューアルオープンしました。築１２０年の町家を再生させたレトロな趣の工房は、地元の人たちが入れ代わり立ち代わり顔をのぞかせ、「ここへ来ると楽しいことに出会えそう」という明るい空気に満たされています。

いまでは町にすっかり溶け込んでいる小関さんですが、近江八幡には縁もゆかりもなく、数年前までは滋賀にもエコにも特に関心がなかったと意外な発言。

「はじめは〝不純な動機〟だったんですよ」と小関さんはいたずらっぽく笑います。

現代美術と陶芸を専門とする小関さんが近江八幡を初めて訪れたのは、２００４年の「ＢＩＷＡＫＯビエンナーレ」のとき。「こんな町に工房をもちたい」と思い、そのためにはまず町の人に受け入れてもらうことが不可欠と考えました。そこで「八幡山の景観を良くする会（八景会）」のボランティア活動に参加。大阪の自宅から熱心に通ってくる紅一点のメンバーは、地元の人たちの目を引いたようです。

「八景会から人の輪がどんどん広がって、皆さんの活動にひきこまれ、気がついたら単身赴任の生活をしていました」

3. 町家の入り口から裏口へと続く「通り庭」はギャラリースペースに活用。体験講座で作成する竹籠などが展示されている。4. 端正な坪庭も小関さんとボランティアが力を合わせて作ったもの。伝統的な和のたたずまいにモダンな感覚がとけあった風通しのいい明るい空間。

3

4

竹やぶの整備活動から住民による町家再生、町づくりの拠点へ。

5

荒れた竹やぶを整備して里山の美しい風景を守る活動のため近江八幡に通うようになって、初めて環境保護の必要を痛感した小関さん。「伐採した竹をただ捨てるのはもったいない」と漠然と考えていたところ、「陶芸だけでなく、近江特産の竹工芸を活かした工房にしたら?」という地元の人のひと言で、竹廃材を有効利用する工房という着想を得ます。自然を守るために竹を伐採し、その竹廃材を伝統工芸に活用する。地域循環の環境保護と創作活動の一体化というコンセプトが決定しました。

工房の場所も改修作業も地元の人たちの協力を得て、念願の工房開設は一気に実現へ。2007年夏、「八景会」の活動を通して広がった人の輪から「八幡酒蔵工房」が誕生しました。陶芸のほか、竹廃材を使った竹編みや竹染め、竹紙すき、竹楽器作りなどの体験型ワークショップを開催する工房は順調なスタートをきりました。

ところが、オープンから1年あまりで都合により移転せざるをえない事態に。工房にとっては大ピンチ! まさか、これがさらなる展開につながるとは想像もしていませんでした。

空き家になった町家が次々につぶされていく現状に「町の貴重な財産、観光資源が失われてしまう!」と危惧していた小関さんが選んだ引っ越し先は、放置されたボロボロの町家。そこで、彼女を助けようと地元の大工さんや町づくりの市民団体、近所の人、学生たちがボランティアとして集まり、倒壊寸前の町家は8カ月かけてレトロで心地いい空間として見事によみがえりました。この春にリニューアルオープンした「八幡酒蔵工房」は、町家の改修工事を経たことで、いつのまにか多くの人が集う「町づくりの拠点」という意味をもつようになっていたのです。

カフェ兼ギャラリーとして開放している町家は、地元の人が次々にぶらりと訪ねてきます。「服したりおしゃべりしたり、小関さんと次なるプランを練ったり、とても賑やか。小関さん自らが栽培した野菜や茶葉を使ったランチや和紅茶、地酒造り、自転車や徒歩でめぐるエコツーリズム、町家での宿泊などなど、地元の人たちと進めている企画が目白押しだとか。

「地元のボランティアに100%支えられてここまできました。皆さんからいただいたご恩は、近江八幡のすばらしさと環境問題を発信することでお返ししていきたいと考えています」

6

8. 間伐竹から作った竹紙の行灯(あんどん)は、和歌山県龍神村の竹工芸作家・菅野今竹生さんの作品。*9.* 竹細工の講座では、間伐竹を工芸品に加工するための下準備から体験することも。火であぶって竹の油を抜く作業の様子。*10.* 間伐竹から竹楽器を手作りするワークショップからはバンブーオーケストラ「たけおと」が誕生した。

9

10

8

7

5. カフェの窓辺もミニギャラリー。若手陶芸作家の作品を展示販売している。*6.* 坪庭の奥にある陶芸の工房は、新進気鋭の建築家EIICHI MATSUDAさんが設計。モダンな離れが古い町家にみごとに調和している。*7.* 八幡山の自然を侵食する竹やぶを伐採する「八幡山の景観を良くする会」の活動風景。

11

12

11. 竹編み講座は毎月第4日曜に開催。受講生の中には道具や機械を買い揃えて本格的な作品を制作する人もいる。*12.* 初心者でも気軽に楽しめる陶器の絵付け体験メニューも用意。*13.* 工房の運営や地元のNPO活動で忙しく、小関さん自身は作陶する時間がなかなかとれないとか。*14.* 町家の生活を体験し、近江八幡を深く知ってもらいたいとの思いから、宿泊用に2階を改修中。プロの大工さんや地元の人たちがボランティアとして全面的にサポート。

13

14

data

八幡酒蔵工房

近江八幡市仲屋町元1番地　0748-32-6421
http://sakagura-kobo.com/
E-mail　info@sakagura-kobo.com
営業時間／10:00～17:00(木曜は13:00～17:00)
定休日／水曜
カフェ・貸しギャラリーのほか、竹編み・陶芸・竹染め・シソ染めなどの工芸講座を開催。講座は1名から受け付け(要予約)、詳細は問い合わせを。町家での生活体験、自転車の貸し出し、各種エコ体験活動の企画も行っている。

取材後記

「こんな町に工房がもてたら」というシンプルな思いが、地元の人たちとの出会いで大きく変わっていった小関さん。人と人がつながって生まれるエネルギーの強さを感じました。工房のレトロなカフェに小関さんお手製の和紅茶が登場する来春が楽しみです!(A)